

交通コンサルタントのバイタルリード(出雲市)は、運賃やバス停を標示する液晶モニターと音声案内を組み合わせた低価格のバス用車載機を開発した。過疎地の路線バスを運行する事業者などに7月から販売する。

車載機は、B5判ほどの箱形の本体、運転席後ろに取り付ける22インチのモニタ、アナウンスボタンのセットで、初期設定費込みで35万円。大手メーカーの5

分の1程度の価格という。バイタルリードは、乗客が客席の降車ボタンを押すと、連動して「次とまります」と表示され、アナウンスが流れる仕組み。バス停の案内やアナウンスの変更も簡単にできる。

画面には、広告や観光案内も映し出すことができる。3月から安来市内のバスに搭載し、試験運用を重ねている。3年間で180台の販売を目指す。

足から車載機を導入していく過疎地のバスも多い。バスの利用促進のツールとして売り込みたい」と話している。(川井直哉)

画面と音声で停留所や運賃

低価格バス案内板

バイタルリード 来月発売



車載機のモニターが取り付けられた
バスの車内